



## あしたの風



発行：男女共同参画あきたF・F推進員・大湯村

TEL 0185(45)2114

2010.3 発行

### 「第2次大湯村男女共同参画社会行動計画」決まる

F・F推進員 石原 敏子

今年度は5年前に策定した「大湯村男女共同参画社会行動計画」の見直しの年でした。

この計画の基本理念は、男女の性別にとらわれず、互いにその人権を尊重し、個性と能力を十分に発揮できる村をめざすというものです。

#### 3つの基本的視点

- ①男女共同参画社会の形成に向けた理念を共有する
- ②家庭及び職場において多様な生き方が選択できる環境を整える
- ③多様な活動が展開される地域社会を構築する

上記の視点に基づき、8つの目標が設定され、計画の具体的な内容が書かれています。

今回は13人の男女共同参画推進委員と6人のチーム検討員が項目ごとに話し合い、見直す箇所や新たに加える部分を検討していきました。

私は5年前もこの計画策定に参加していました。大湯村には、他の市町村にはない農村にふさわしい、男女共同参画のあり方があるはずだと考え、委員に前農業改良普及センター所長の畠山邦子氏に加わっていただき、検討したのを覚えています。

今回、17年度の計画を読み直しますと社会の動きも村の状況も変化しているのがわかりました。農家の8割近くが入植者から二世に経営移譲されており、農業以外の就業人口も増え、混住化が進んでいます。まだ若いといわれていた大湯村でも高齢化率は25%に達しました。

高齢化の進展に伴う介護の負担や共働き世帯の子育て支援など、地域として取り組む課題が多くなってきています。

生き方も多様化し、昔の農村のように形にはまった生き方を求められることはなくなりましたが、その分人間関係は希薄になってきているのではないのでしょうか。

社会の変化として、男女雇用機会の均等と待遇の確保をめざすと共に「ワーク・ライフ・バランス」という言葉が使われるようになりました。やりがいのある仕事と充実した私生活を両立させるという考え方です。仕事と生活の調和とは、ただ働くだけでなく、家庭を大切に、友人と語り合い、地域活動に参加することであるといえるでしょう。この五年間にどのくらい男女共同参画の意識が浸透したのかあいまいな所があります。しかし、目標を掲げ、それに向かって前進していくことが大切です。

審議会の委員に任命されたら引き受け、委員の公募があったら参加してみるなど、逃げたり、めんどうがっていないで、ささやかなところから初めてみませんか。

5年後、社会に、この村に、どのような変化が見られるのでしょうか。

第2次行動計画がその指針になることを願っています。



# 男女共同参画講座「おたがいを大切にする快適な関係」

F・F推進員 柏 雄子

3月2日、大湯村農協会館にて、「NPO 法人あきたエンパワPLAC E・06」理事長 松葉谷温子さんから「おたがいを大切にする快適な関係」について講演いただきました。

松葉谷さんは秋田市の助役も務められ、現在は子供を守り育てるための「チャイルドライン」や子供もおとなも大切な自分を実感できる暮らしを応援するための「えんぷれの家」を主に活動されています。

また、チャレンジサポーターとして、秋田県中央男女共同参画センターから佐藤民子さんにも加わっていただき、講演のまえにアイスブレイキングを行っていただきました。

【講演をされる松葉谷さん】

このワークショップには約束事が3つあります。

- ①ここで参加者が話した事は持ち帰らないようにしましょう。（ここだけの話しです。）
- ②他の人が話をしている時は、途中で割り込んだりせず、最後まで聞きましょう。
- ③どうしても話しができない時は、無理をしない、無理強いしないようにしましょう。

以上3つのルールを守りながら、4人～5人のグループで行いました。

普段話した事のない人、または、あまり話した事のない人と組んで、誕生日の順に話し手となります。

相手に話す事や、聞いてもらう事、相手の話を聞く事で何を思ったか？など、今の自分の気持ちを大切にしつつ、相手の気持ちも尊重する表現として、私を主語にして話す、アイメッセージを意識しながら生活することの重要性を学びました。

松葉谷さんの講話は映像になって、皆にわかりやすく、目の奥に吸収されていきました。自己肯定感、自尊感情、自分への信頼感をもつことなど一つ一つわかりやすく言葉にすると！

☆弱さも欠点なども否定することなく「自分自身を好ましい」と思う感情

☆自分のことを大事だと思う気持ち

☆自分を大切な存在、人間であると思えること

☆ありのままの自分を肯定的に受け入れる、認める気持ち、自分自身に対して肯定的な感情をもつこと

☆何もできなくても、他人に認められなくても、そこに自分が存在し、ただ自分であることに価値を認めること！



すべての人には本来「力」があります。知識は、自分が体験した時の感情とつながった時に初めて潜在意識を覚醒させ、意識化させたとき力になると感じています。わたしOK、あなたOKの快適な関係作りに向けて、一人ひとりちがっていい！！

# ～参加者の感想～

- 自分に優しくすることでみんなにも優しくできること。難しい話かと思いましたが、気軽にやれることを認識しました。
- 大潟村の後継者、男性(夫)にもたくさん参加してほしかった。今、自分が悩んでいることがあって、とても参考になり、参加してよかったです。
- 自分を考えるスタートラインに立ったような気がする。
- 自分を褒めることをもっとしたい。私は相手OKで自分はOKでないことが多い。このままでは自分なくなるのではないかと思っていましたが、自己肯定感を持ちます。



ご参加ありがとうございました！



—アイスブレイキングとは—

グループ学習やワークショップの最初の活動として、不安や緊張を永解させ、互いに知りあい、なじんでメンバーが相互に知り合うための技法です。

## ♪おすすめ本の紹介♪

### 「女性学への招待」

井上 輝子 著  
ゆうひかく選書 ¥1,600

女性学とは、女性個々人が、自分の生活と人生におけるジェンダーに気づき、解きほぐす作業。そのための取扱説明書とも言える一冊です。

### 「嫁のいい分・姑のいい分」

林 えり子 著  
清流出版 ¥1,470

嫁として姑、小姑とのかくも長き戦争を経て、いつの間にか自らも姑になっていた。姑になって見えてきたものは？

いずれの本も男女共同参画について  
わかりやすく書かれている良書です。  
ぜひ読んでみてください！

### 「お笑いジェンダー論」

瀬地山 角 著  
頸山出版 ¥1,890

「ライフ」の活気を再現する！女と男の「社会的性差」をめぐるお話の数々。  
笑って笑ってその先は、しっかり考えよう！

### 「世界中のひまわり姫へ」 ～未来をひらく「女性差別撤廃条約」

ポプラ社 ¥1,470  
小笠原みどり・文 永田萌・絵  
北九州市立女性センターで募集した「女性差別撤廃条約」の名訳コンクールで優秀賞に選ばれた作品を児童にもわかりやすい絵本にしたもの。



## 「あきたF・F推進員」の研修を終えて

F・F推進員研修生 近藤正

「F・F」とはフィフティ・フィフティの略で、「男女共同」を表わしています。共働きから必要を感じていましたが、職場（県立大）で初の男性育休取得や学会事務局を引き受けたときその学会として初の託児室設置などを行なってきました。この度、あきたF・F推進員研修生に推薦していただき、1年間養成研修を受けてきましたので、簡単にご紹介申し上げます。研修では国立女性教育会館研修と北東北三県男女共同参画推進協議会事業に参加いたしました。

2009年8月28日から30日にかけて行われたNVEC（国立女性教育会館）フォーラムでは、女性のエンパワーメント（地位向上）について様々な観点からの意見を聞くことができました。大学における女性研究者の分科会もありました。中でも興味を持ったのは、農山村における女性のエンパワーメントについてでした。以前本で読んだエピソードにこのようなものがあります。農家の妻が体調を崩し寝込んだ時のこと、夫の「食事は心配するな」という言葉にほっとした妻でしたが、買って来た弁当が夫の分ひとつしかないのを見て愕然とする、というものでした。極端な例ですが、家庭内でもお互いに思いをめぐらすことがなければ似たようなことはあるだろうと思います。社会においても男性の解放は女性の解放なくしてあり得ないということかもしれません。思いやりこそ男女共同参画に必要と考えた三日間でした。

2009年10月30日の「北東北三県男女共同参画推進協議会事業」研修では、ワークライフバランスについて講演と事例発表が行われました。仕事と家庭の両立を語る上では欠かせない育児休暇について、男性の取得率は平成19年で1.56%と女性の取得率89.7%に比べごく一部でしかないのが現状です。社会的な認識の進展を期待しますが、同時に男女共同参画の課題は、働く人々がいかに生き甲斐を豊かに共有できるかという、人権問題そのものであると強く考えさせられました。その意味においては、日本社会は極めて遅れているのが残念ながら現状と言わざるを得ません。

これから「あきたF・F推進員」として十分な活動ができるかは少し不安ですが、表面的な事象に惑わされることなく、自分も含め地域がしっかりとした認識を持てるような活動ができたらと考えています。大湯村は、モデル農村としての歴史を刻み、産業的尺度においては名実ともにトップクラスの高い農業生産性を確立してきましたが、その裏には女性たちの並々ならぬ努力と辛抱があったと伺えます。社会の中での農業そのものの位置付けを向上することも根底にある日本の課題です。

市場原理（特に競争原理）と慣習の古い枠の経験の上にある今日の生活は、職場や家庭における私の個人的経験からも簡単に改善に向うものとは到底思えません。幸いにも、大湯村には素晴らしい先輩達が揃っており対話劇など先進的な活動が進められています。日常の中で共有できる「気づき」をいかに生み出せるかに視点を置いて、先輩推進員の皆様と創意工夫しながら、楽しく活動を進めて行けたらと期待を膨らませております。どうか宜しくお願いします。



### ～編集後記～

日に日に春らしくなってきました。

春作業もはじまり、お忙しい毎日と思いますが、どうぞ安全第一で！

（役場住民生活課 菅野）

☆お問い合わせはこちらへ☆

大湯村役場住民生活課

TEL 0185-45-2114

FAX 0185-45-2162